

# TUMSAT-OACIS Repository - Tokyo

University of Marine Science and Technology

(東京海洋大学)

第一部 海鷹丸航海調査報告 平成14年度(2002年度)  
航海報告

|       |   |
|-------|---|
| メタデータ | 言語: jpn<br>出版者:<br>公開日: 2012-01-20<br>キーワード (Ja):<br>キーワード (En):<br>作成者:<br>メールアドレス:<br>所属:     |
| URL   | <a href="https://oacis.repo.nii.ac.jp/records/416">https://oacis.repo.nii.ac.jp/records/416</a> |

## 1. 平成 14 年度（2002 年度）航海報告（Report of the Cruise in 2002 Fiscal Year）

### 1.1 概要（General Account）

研究練習船海鷹丸の平成 14 年度（2002 年度）航海は、クルージングと 3 回の実習航海と第 28 回東京水産大学公開講座「海洋学者を体験しよう」による航海、シフトや台風による避難を含め、年間 211 日航海し、29638.2mile 航走した。寄港地は国内 11 港、国外 6 港、約 90 回の海洋観測を実施した。各寄港地では水産や船舶にゆかりのある施設の見学会及び研究所や大学の教職員と学生との交流会を実施した。専攻科乗船以降、課外授業の一環として、和歌山県の三井造船所由良工場において工場見学を行った。

4 月中旬 1 泊 2 日の体験航海（Cruising）を 3 回実施した。新入生を対象とし東京湾にて海の体験、船上基礎訓練及び大学生活に関するアンケート調査を行った。その後 1 ヶ月の実習航海にてトロール操業実習、イカ釣り実習を行い、9 月には三井造船由良工場に入渠し、補償工事の施工及び第 2 種中間検査を受検した。工事終了後 9 月下旬東京に回航した。

#### 第 7 次航海

第 7 次航海となる夏季の乗船漁業実習Ⅱの日本周航 1 ヶ月航海では 3 年次学生を対象とし、東シナ海に於いてトロール（Trawl）操業実習・日本海においてイカ釣り実習・機関実習（基礎）・航海実習（基礎）を実施した。また駿河湾沖及び豊後水道付近にてアンチローリングタンク及びフィンスタビライザーによる船体動揺試験を実施した。GPS 方位信号の実験及び津軽海峡において FURUNO 潮流計の潮流補正確認試験が計画実施された。海洋観測実習及び機器試験は、東シナ海海域において、CTD・ADCP・RMS 及び MVP（曳航式 CTD）等の観測を行い海洋環境の測定を実施した。

塩釜では船上での大学説明会が行われ、多くの参加者に大学紹介等入学相談及び船内見学を行った。7 月 17 日前後において台風 12 号が日本を縦断したため、予定の寄港地及びトロール実習を取りやめ、風除けのため内海に進路を変更した。また日本海及び太平洋側三陸沖では濃い霧が発生し、狭視界での航行が強いられた。

#### 第 29 回東京水産大学公開講座「海洋学者を体験しよう」

##### 公開講座による一般対象の体験航海の実施

8 月 17・18・19 日の公開講座では、東京湾の環境や海鷹丸見学など「海洋学者を体験しよう」というテーマで開かれた。一般者乗船には国土交通省等から許可を受け、中高生対象とした体験航海を実施した。旧船も含め一般者対象の航海は 5 回目となる。また大学説明会が 8 月 23 日に東京中央区晴海ふ頭で行われ、本船の見学会も同時に行われた。

#### 第 8 次航海

10 月 7 日から 10 月 19 日の間、大学院生と専攻科学生による大学院トロール実習が行われた。東シナ海において 30 分間のトロールを 5 回行い、計量漁探による解析、体長測定 CTD 等による海洋観測を行い、5 種類の魚種について資源量を解析した。なおこの実習は、東京水産大学の全大学院生を対象に行われている。

### 第9次航海（遠洋航海）

11月に船内消毒、ねずみ駆除免除検査の後、出港約1週間前外航船資格変更となり、燃料その他免税品を積込んだ。乗員は、尿・血液検査を含む健康診断を受診した。約3ヶ月の専攻科学生の遠洋航海では、赤道を2回横断し、中部インド洋においてマグロ操業実習、全行程において航海実習・機関実習・観測実習の各実習を行った。STCW条約による訓練記録簿の実施を昨年に引き続き行った。スンダ海峽を通過後ポートルイスまでの公海上においてニューストーンネットによる表層曳き観測を行なった。Fremantle港では、農業省の検査官による船内の衛生検査が行われた。暴風圏は2回往復し、アフリカからケルゲルン島経由で南極洋にまた、オーストラリア西岸からの2回南極洋に突入した。冰山や氷縁により針路を変更しながら南極洋を航行し、生物・物理・化学の多種の分野における調査、鯨やアホウドリ・ミズナギドリ類・漂流物・氷山の目視観測が実施された。また南極大陸フランス領の基地前に錨泊（Photo. 3）し、計量魚探の振動子確認のため更正球による調査を実施した。ThailandにあるSEFDEC（東南アジア漁業練習センター）及びチュラロンコイ大学・カセサート大学の養殖場の見学会・交流会、タスマニアはAMC（オーストラリア海事大学）での見学会・交流会が実施された。インド洋モーリシャスのポートルイス港での大晦日から新年に行われた花火大会あと正月を祝った。インドネシアのスンダ海峽、ラバウル火山島横のセントジョージ海峽を通過した。タスマニア南東海域のホバートからローンセストンの間、AMCとの共同トロール調査を実施し、岩場でのトロールによって網の一部が破損した。

マグロ延縄実習の漁場はインド洋中央部の公海上で実施した。操業は1週間、漁獲はマグロ・カジキ類合計37本漁獲した。各港入港前はCFR（国内法）を遵守し、法定備品等の確認および非常操舵訓練や非常発電機操練など規定に従った訓練を実施した。

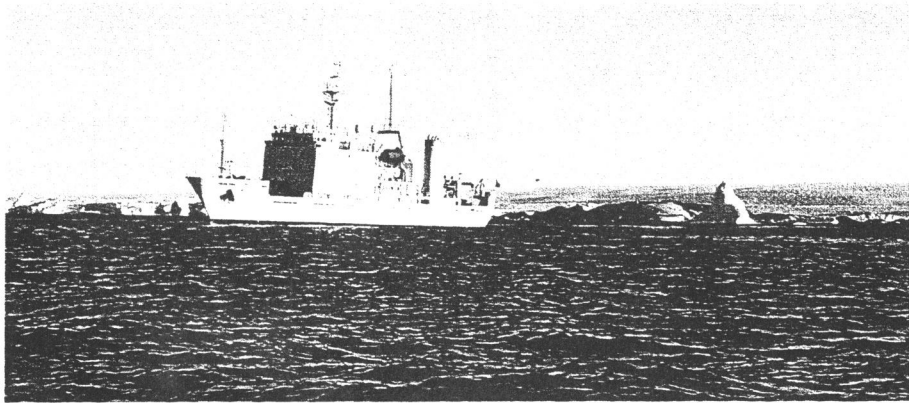


Photo. 3 Antarctic sea

年間航海実施表 (Annual Cruise Itineraries)

| 航海日程及び航程                                   | 乗船乗組員 | 乗船学生               | 乗船研究者等                     | 主寄港地備考                                     |
|--|-------|--------------------|----------------------------|--|
| Cruising 航海<br>April 10~April 24 2002      | 29名   | 56+55+53名<br>1年次学生 | 15名<br>教官/事務官              | 館山湾  |
| 第2種検査入渠工事<br>Sep 2~Sep25 2002              | 29名   | 0名                 | 0名                         | 和歌山県和歌山市<br>由良                             |
| 第7次航海 Nav.No.7<br>July 11~Aug 10 2002      | 29名   | 40名<br>3年次学生       | 教官5名/研究<br>員9名/技術補<br>佐員1名 | 宇和島,下関,長崎,西<br>郷,小樽,石巻,塩釜                  |
| 公開講座体験航海<br>August.18.19 2002              | 29名   | 39名<br>一般          | 技術補佐員5名<br>/事務官1名          | 館山   |
| 第8次航海 Nav.No.8<br>Oct.7~Oct.19 2002        | 29名   | 27名+32<br>大学院生     | 10名<br>教官/研究               | 那覇   |
| 第9次遠洋航海 Nav.No.9<br>Dec.3 2002~Mar.28 2003 | 29名   | 27名<br>専攻科学生       | 24名<br>極地研究所<br>一般公開1回     | バンコク,ポートリス,フ<br>リーマントル,ホバート,ロー<br>ンセストン,ヌア |

\*乗船学生総数 306名、乗船研究者等 70名

累計乗船者数 学生 863名、研究者等 140名

\*寄港地(国内) 鹿児島, 屋久島, 長崎, 五島(福江島), 新潟, 沖ノ島, 小樽,

青森, 函館, 館山, 焼津, 須崎, 宇和島, 下関, 七尾, 江差, 室蘭, 石巻, 塩釜, 那覇

\*寄港地(海外) Bangkok (Thailand), Port Louis (Mauritius), Numea (New Caledonia), Fremantle・Hobart・Launceston・Sydney (Australia), Auckland (New Zealand), Papeete (Tahiti), Honolulu (U.S.A), Valparaiso (Chile), Montevideo (Uruguay), Recife (Brazil), Castries (ST.Lucia), Cristbal (Panama), Panama Cannel, San Diego (U.S.A), Patagonia Root, Magellan channel

年間航海実績 (Annual Cruise Log)

| 航海名      | 寄港地                                     | 期間    | 航程数            |
|----------|---|-------|----------------|
| クルージング航海 | 東京 館山湾                                  | 3回×2日 | 6日             |
| その他転錨    | 4回 (May7, June24, Nov.7, Mar.28)        |       | 4日             |
| ドック航海    | 東京 和歌山県由良(Sep.2~Sep.25)                 |       | 32日            |
| 第7次航海    | 東京 館山 宇和島 下関 五島 長崎 小樽<br>石巻 塩釜 江差 須崎    |       | 30日            |
| 公開講座航海   | 東京 (台風) (Aug.18)                        |       | 1日             |
| 第8次遠洋航海  | 東京 館山湾 那覇                               |       | 12日            |
| 第9次航海    | 東京 バンコク ポートリス フリーマントル ホバート ロンセ<br>ストンヌア |       | 100日           |
| 台風避難     | 3回 (July11, Aug.19, Oct.2)              |       | 6日             |
| 計        |   |       | 211日           |
| 累計(3年間)  | 前年度 208日 33675.1 哩                      |       | 613日 87419.0 哩 |

実習期間 (Training Term)

| 実習航海         | 実習期間                            | 対象学生    |
|--------------|---------------------------------|---------|
| 臨海実習クルージング航海 | April 19, 2002 ~ April 24, 2002 | 1年次学部学生 |
| 乗船漁業実習Ⅱ      | July 10, 2002 ~ Aug 10, 2002    | 3年次学部学生 |
| 乗船実習         | Aug 23, 2002 ~ Mar 23, 2003     | 専攻科学生   |

調査項目 (Survey Items)

| 航海名      | 調査機器  | 調査海域        | 実習操業         |
|----------|---|-------------|--------------|
| クルージング航海 | CTD×3   | 相模湾         | 操船訓練         |
| 第7次航海    | CTD×10, 光×5, イカ釣×4  | 日本海         | イカ釣漁業        |
| 第8次遠洋航海  | CTD×5, IONESS×2, 稚魚 net×2, RMT×3, トロール×7 中層トロール・MVP×LADCP   | 東シナ海        | トロール漁業       |
| 公開講座     |   | 相模湾         | 体験航海         |
| 第9次航海    | XCTD×55, XCP×22, CTD×56, Norpac×34, 稚魚 net×29, PP-Oct×8, Fe-Oct×6, LADCP×18, PRR×27, アルゴ・フイ×8, CPR×7, VSF×3, TR×4, RMT×5, K-CTD×5, 表層 net9回<br>トロール (底曳・中層) | 南極洋<br>インド洋 | 延縄漁業<br>トロール |

## 1.2 海鷹丸要目表(Particulars)

Name of Ship: UMITAKA MARU  
 Kind: Training Ship, Motor Ship  
 Owner: Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology of Japan  
 User: Tokyo University of Fisheries  
 5-7 Konan 4chome, Minato-ku, Tokyo, JAPAN  
 Port of Registry: TOKYO  
 Call Sign: JPAT  
 Ship's Number: 136932  
 IMO Number: 9231078  
 Name of Master: Yoshio Koike  
 Dimension: Length Overall 93.00Meters Breadth 14.90Meters  
 Length (p.p.) 83.00Meters Depth (Up.) 6.25Meters  
 Gross Tonnage: 1886.00 Tons  
 Net Tonnage: 1017.00 Tons  
 International Tonnage: 3391.00 Tons  
 Main Engine: Diesel Engine 6000 p.s. , Single Screw (C.P.P.)  
 Cruising Speed: 17.4 Knots  
 Complement: Officers 18 persons Crew 21 persons  
 Cadets 60 persons Professors 8 persons  
 Total 107 persons  
 Type of Fishery: Stern trawl, Tuna long-line fishing, Squid jigging fishing, etc  
 Navigation Equipment: Auto pilot system, Integrated electronic navigation system, Ship maneuvering system, Hybrid navigation system, Radar, Automatic radar plotting aids, Ship motion analysis system, Ship maneuvering system, ECDIS, GPS-GLONASS, Echo sounder, Total control system, Ring laser gyro compass, Fin stabilizer, Anti-rolling tank, etc.  
 Training Equipment: Maneuvering simulator, Main engine simulator, GMDSS simulator, etc.  
 Research Equipment: Precise depth recorder, ADCP, Scanning sonar, Quantitative echo sounder, CTD OCTPUS analysis system, IONESS net, RMT net, MVP analysis system, ROV system, Wave height meter, OPCS, XCTD/XBT system, Beam trawl, Profiling ultraviolet radiometer and surface reference, Profiling reflectance radiometer system, Multi core sampling system etc.  
 Winches for Fisheries and Marine Observation:  
 Trawl winch 5/3 t × 60/100 m/min 1 set  
 10,000m CTD winch, one  
 6,000m Multi purpose winch, one  
 3,000m Clean water sampling titan cable winch, one  
 MVP winch, one  
 BT winch, one

このページは非表示です。

This page is hidden from view.